



祖母がくれた私の夢



国籍	ミャンマー
職種	介護
実習実施者	株式会社プロデュース
監理団体	ジェー・オー・ピー協同組合

シン アエ
SHING AWI

私は介護技能実習生として日本にきました。正直に言うと、昔の私は海外で暮らすことなど、想像もしていませんでした。日本に来て三年目になりますが、今でも時々、自分が異国の地で生活していることが夢のように感じられます。家族と離れて暮らしたことのなかった私にとって、異国の地で一人で生きることは、想像以上に苦しく、寂しいものでした。それでも日本へ来る道を選んだのは私自身です。母国では、戦争の影響で学校も閉鎖され、安心して未来を描くことが難しい状況でした。そんな中、母は「海外へ行くためではなく、自分の人生のために新しい言語を学んでください。そして辛くなったらいつでも帰ってきていい」と背中を押してくれました。私はその言葉を胸に、故郷を離れ、日本語の勉強を始めました。しかし、日本語を学んでいる中、私が心から愛していた祖母が亡くなりました。私は祖母の最期にそばにいらなかったことを深く後悔しました。「どうして私は祖母のそばにいてあげられなかったのだろう」と何度も自分を責めました。けれど、その後悔を悲しみのままで終わらせたくありませんでした。私の国には、亡くなった

人のために善い行いをすれば、その人も良い場所へ行けるという考えがあります。祖母のためにできる善い行いを重ねたいという気持ちが、私を介護の道へ導いてくれました。介護は、ただ身体を支えるだけではなく、心に寄り添い、その人が安心して生きられるように支える尊い仕事だと思います。そして祖母と一緒に過ごした日々があったからこそ、お祖父さん、お祖母さんたちの気持ちに寄り添いを出来ると自分自信もありましたので介護の仕事を選びました。日本で介護の現場に立つ中で、私は多くのことを学びました。利用者様の「幸せな様子を見られる時」利用者様から「ありがとうね」と言っていたくたびに、その優しさに励まされ、この仕事を選んで良かったと、心から感じています。そして、日本で学んだ介護の知識をもっと深く身につけたいと思うようになりました。いつか母国に帰った時、日本で学んだ知識や技術を生かし、高齢者の方々が安心して暮らせる場所を作りたいです。これは祖母がくれた私の夢になりました。祖母への後悔を、誰かを支える優しさに変えるために。家族がくれた愛情を、今度は私が誰かに届けるために。私はこれからも、日本で介護を学びながら、祖母がくれたこの夢に向かって歩きます。